

2012 年 7 月 19 日

調査レポート

グラフで見る東海経済 (2012 年 7 月)

【今月の景気判断】

東海経済は緩やかに持ち直している。自動車の挽回生産が一段落し、東海3県の鉱工業生産は3ヶ月ぶりにマイナスとなった。雇用・所得環境の改善は頭打ちとなってきたが、エコカー補助金の効果により自動車販売は引き続き好調で、百貨店など高額消費も昨年の震災後の自粛ムードの反動もあり堅調に推移している。また、公共投資や住宅投資も底堅く推移しており、全体としての持ち直し傾向は続いているとみる。

今後は、エコカー補助金枠の終了により、自動車販売が鈍り、自動車生産の押し上げ効果も剥落することが予想される。また、足元で好調が続く輸出も、欧州財政金融危機の影響により鈍化するリスクや、円高の再燃、米国経済の先行き不透明感など、輸出環境を悪化させる要因に注意が必要である。

【今月の景気予報】

	3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	↗	☁	→	輸出	↗	☁	→
個人消費	↗	☁	→	輸入	↗	☁☀	→
住宅投資	→	☁☔	→	生産	→	☁☀	↘
設備投資	↗	☁	↗	雇用	↗	☁	→
公共投資	→	☔	→	賃金	→	☁☔	↘

(注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感(改善、横ばい、悪化)を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。

2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。

【当面の注目材料】

- ・世界景気 ～米国、中国の景気の先行き不透明感、欧州の財政金融危機の行方、追加金融緩和の可能性
- ・企業活動 ～補助金枠の終了に伴う自動車生産及び自動車販売の動向、円高再燃への懸念
- ・家計 ～雇用・所得環境の先行き、自動車など耐久財消費の動向、自動車生産の一服が消費に与える影響

～本レポートについては最終ページ【「グラフで見る東海経済」の見方】参照

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

エコノミスト 内田俊宏 (chosa-report@murc.jp)

〒460-8621 名古屋市中区錦3丁目20-27

TEL: 052-203-5321

【各項目のヘッドライン】

項目	6月のコメント	7月のコメント	ページ
1. 景気全般	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	3～4
2. 生産	持ち直している	横ばい圏で推移	5～7
3. 雇用	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	7～8
4. 賃金	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移	9
5. 個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	10～11
6. 住宅投資	下げ止まりつつある	横ばい圏で推移	12
7. 設備投資	底堅く推移している	増加しつつある	12～13
8. 公共投資	下げ止まりつつある	下げ止まっている	13
9. 輸出入	輸出、輸入とも増加	輸出、輸入とも増加	14～15
10. 物価	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇	15
11. 金融	預金、貸出ともに増加	預金は増加、貸出は減少	16
12. 倒産	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数、負債総額ともに減少	16

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目

(*) 参考資料: 「グラフで見る景気予報」 → <http://www.murc.jp/report/research/list.php>
【前月からの変更点】
2. 生産

5月の東海3県の鉱工業生産指数は前月比－5.2%と挽回生産の反動で3ヶ月ぶりに低下した。

6. 住宅投資

5月の東海4県の住宅着工戸数は前年比＋5.3%の7,700戸と9ヶ月ぶりにプラスに転じた。

7. 設備投資

日銀短観6月調査によると、12年度の設備投資計画は、製造業（＋23.3%）非製造業（＋15.2%）と大幅な増加が見込まれている。

8. 公共投資

6月の東海3県の公共工事請負額は、前年比＋25.8%の954億円と増加した。

11. 金融

5月の東海3県の預金残高は前年比＋2.6%と増加し、貸出残高は同－0.2%と13ヶ月ぶりに減少した。

12. 倒産

6月の東海3県の倒産件数は前年比－24.2%と減少し、負債総額は同－31.5%と2ヶ月連続で減少。

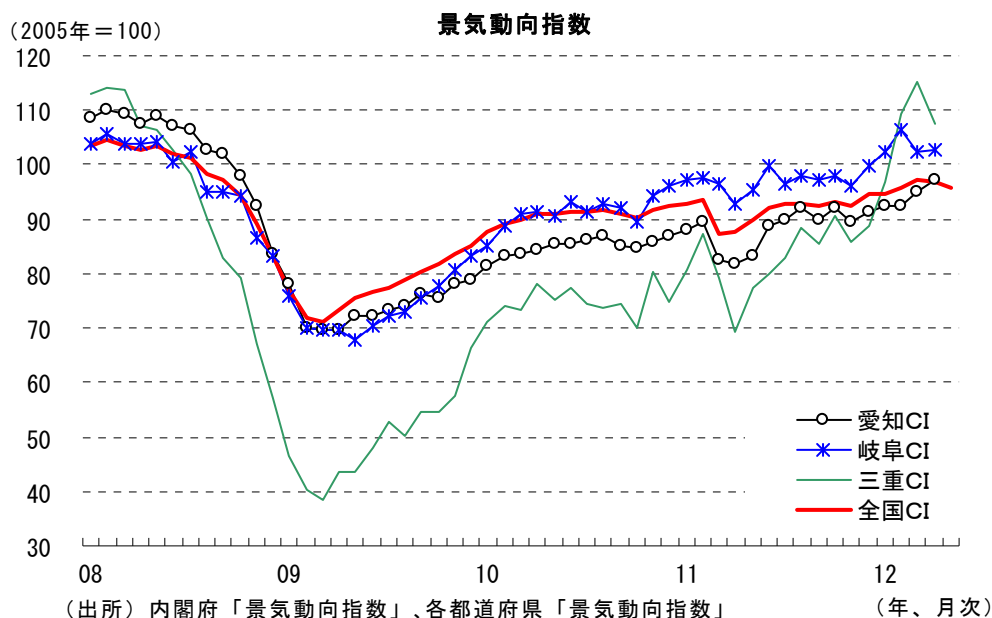
【主要経済指標の推移】

経済指標		11 4-6	11 7-9	11 10-12	12 1-3	12 4-6	12 1	12 2	12 3	12 4	12 5	12 6
景気全般	景気動向指数 愛知（C I、一致指数）	84.6	90.5	90.8	93.3		92.6	92.3	94.9	97.4		
	岐阜（C I、一致指数）	96.1	97.4	98.0	103.6		102.2	106.5	102.2	102.8		
	三重（C I、一致指数）	75.5	85.7	88.5	107.2		97.0	109.5	115.2	107.4		
	景気ウォッチャー調査（現状判断DI） （先行判断DI）	36.8 42.7	49.5 48.8	46.2 44.5	48.6 47.9	48.2 48.6	46.4 46.3	46.8 48.1	52.7 49.2	50.8 50.8	48.0 49.9	45.7 45.2
	短観業況判断DI（大企業製造業） （中小企業製造業） （非製造業）	-25 -29 -24	20 -4 -13	4 -7 -4	17 -5 -3	5 -10 0	4<9月予想> -11<9月予想> -4<9月予想>					
	法人企業統計経常利益 製造業（兆円） 非製造業（兆円）	0.1 0.2	0.2 0.2	0.3 0.2	0.4 0.1							
生産	鉱工業生産（季節調整済、前期比・前月比）	-11.4	15.5	0.7	8.0		4.1	-0.6	2.6	1.7	-5.2	
	鉱工業出荷（季節調整済、前期比・前月比）	-11.7	15.9	0.7	6.3		2.7	1.4	-0.8	3.2	-2.6	
	鉱工業在庫（季節調整済、前期比・前月比）	0.6	2.9	-1.8	2.6		0.2	-1.4	10.9	4.7	-6.6	
	鉱工業生産 輸送機械（ " ）	-22.9	45.7	5.6	12.5		6.0	-3.4	8.8	8.8	-12.0	
	一般機械（ " ）	3.9	1.9	-1.8	0.7		1.5	-1.0	0.8	1.9	-1.8	
	電子部品・デバイス工業（ " ）	-13.5	-2.7	0.9	10.1		-2.3	10.7	-15.5	-3.9	-1.9	
	プラスチック製品工業（ " ）	-6.3	11.5	2.5	8.0		2.9	0.5	5.1	5.5	-4.6	
	化学（ " ）	-1.5	-1.1	0.4	-5.7		-7.1	1.4	-7.4	3.9	-4.3	
	電気機械（ " ）	-6.2	7.7	-1.6	1.1		0.3	-3.1	6.0	1.4	2.8	
	金属工作機械受注 総受注（億円） 国内受注（億円） 海外受注（億円）	375.8 107.3 268.4	372.9 119.2 253.7	363.5 116.5 246.9	322.2 113.9 208.3		310.4 96.0 214.4	288.0 103.1 185.0	368.3 142.7 225.6	335.0 109.4 225.6	329.7 103.8 225.9	
	大口販売電力量	-2.4	-0.5	1.9	4.9		1.2	5.6	8.0	10.2	10.0	
雇用	完全失業率（原数値、%）	3.9	3.5	3.5	3.5							
	就業者数（原数値、万人）	770	772	771	763							
	常用雇用指数 愛知	99.7	99.5	99.5	99.0		99.3	99.1	98.6	99.3		
	岐阜	99.4	99.4	99.6	100.2		99.6	99.6	98.0	99.3		
	三重	99.9	99.8	99.5	99.1		99.2	99.7	99.3	100.3		
	有効求人倍率 愛知（季節調整値、倍） 岐阜（季節調整値、倍） 三重（季節調整値、倍）	0.8 0.8 0.7	0.9 0.8 0.7	1.0 0.8 0.8	1.1 0.9 0.9		1.02 0.89 0.81	1.05 0.92 0.85	1.09 0.96 0.89	1.18 0.99 0.94	1.20 1.02 0.97	
	新規求人倍率 愛知（季節調整値、倍） 岐阜（季節調整値、倍） 三重（季節調整値、倍）	1.3 1.2 1.0	1.4 1.2 1.2	1.6 1.3 1.2	1.7 1.5 1.4		1.61 1.39 1.34	1.74 1.49 1.37	1.80 1.47 1.45	1.85 1.53 1.46	1.91 1.48 1.41	
	現金給与総額 所定内給与 所定外給与	-1.5 -1.2 -6.3	1.5 -0.7 2.4	0.1 -0.6 7.4	-0.5 -0.8 9.9		0.0 -0.9 7.8	-1.2 -0.4 6.9	-0.4 -0.9 15.1	0.5 -1.9 26.7		
	勤労者世帯（含む農家）の名目収入 勤め先収入 定期収入	-5.9 0.6	2.4 -1.7	-1.5 -0.2	4.5 7.0		5.2 4.0	6.8 10.7	1.8 6.4	1.5 6.2	-3.2 -1.1	
	勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出	0.7	-8.8	-1.1	-4.8		-6.3	2.3	-9.2	-5.2	-0.1	
個人消費	百貨店販売額（名古屋市内）	-5.0	-5.1	-1.3	-0.3	-0.1	-2.1	-1.2	2.4	0.2	-1.5	4.3
	百貨店+スーパー販売額（名古屋市内百貨店除く）	0.8	-0.5	-0.8	0.4		-0.1	0.9	0.5	-2.0	1.6	
	コンビニエンスストア販売額	5.9	5.7	9.7	2.5		0.6	5.6	1.2	6.2	3.2	
	消費者態度指数（一般世帯、原数値）	34.8	37.9	38.1	39.6	40.5	39.6	39.1	40.1	40.1	40.7	40.8
	トヨタ国内生産台数（季節調整値、万台）	13.9	26.3	28.5	33.5		32.2	33.1	35.3	32.5	30.7	
	家電販売額						-9.7	-18.2	-28.1	-12.5	-26.9	
	新車登録台数（除軽）						46.2	32.4	77.9	105.5	85.1	
住宅投資	新設住宅着工戸数（季節調整済年率換算、千戸） （前年比、%）	97.0 -4.0	115.4 9.7	91.6 -13.8	97.3 -7.3		90.2 -14.5	100.5 -5.3	101.0 -2.1	98.8 -2.2	103.5 6.7	
設備投資	法人企業統計設備投資（製造業） （非製造業）	-12.6 -5.6	-8.0 1.6	-10.5 1.7	-3.5 -12.5							
	企業立地件数	—	—	—	—		9	8	11			
公共投資	公共工事請負額	-19.7	-6.2	-5.7	-0.7	10.5	-16.6	31.1	-7.1	-10.2	42.8	25.8
輸出入	実質輸出（季節調整値、07/12=100）	66.0	86.4	84.4	85.4		84.6	86.8	84.9	91.9	93.2	
	通関輸出（金額ベース、円建て）	-17.1	3.9	0.4	5.0		-3.1	2.2	14.7	34.4	51.2	
	実質輸入（季節調整値、07/12=100）	99.0	102.8	98.5	98.5		103.7	91.5	100.1	103.4	106.2	
	通関輸入（金額ベース、円建て）	19.3	25.6	21.6	13.0		20.4	7.5	11.1	8.9	11.0	
物価	消費者物価指数（除く生鮮） （食料及びエネルギーを除く総合）	-0.2 -1.0	0.1 -0.7	-0.1 -1.2	0.3 -0.7		0.1 -0.9	0.3 -0.6	0.5 -0.5	0.6 -0.2	0.3 -0.4	
	国内銀行預金残高 国内銀行貸出残高	2.1 0.1	2.9 0.7	3.2 1.4	3.4 2.2		3.3 1.5	3.2 2.7	3.6 2.3	2.1 1.3	2.6 -0.2	
倒産	倒産件数	29.6	-14.3	2.7	-17.6	-8.7	0.9	-7.2	-39.4	-5.8	6.6	-24.2

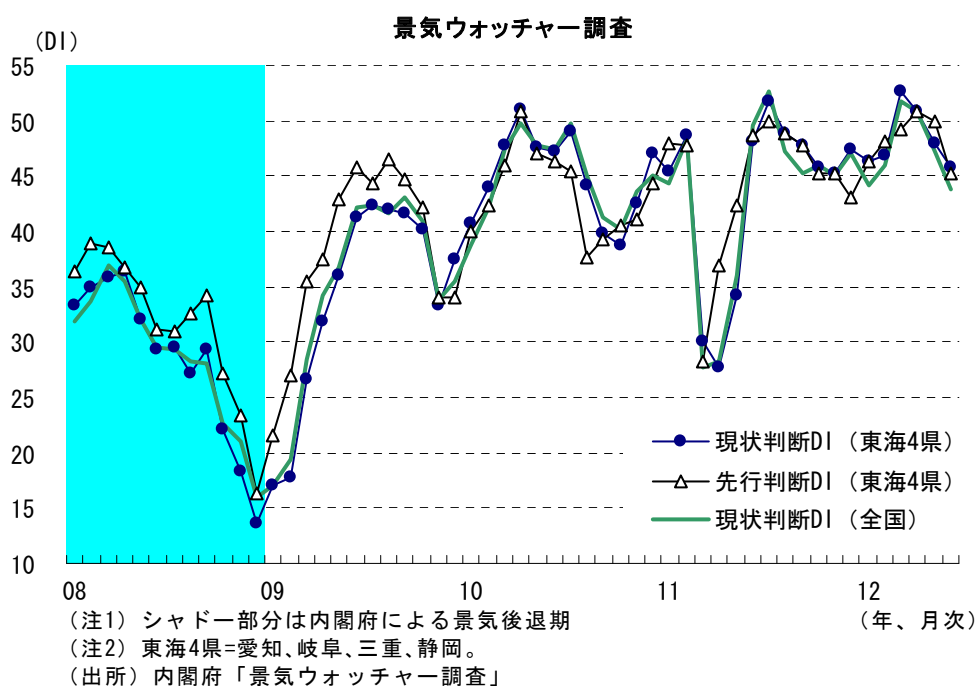
（注）括弧書きのない場合は、単位は前年比、%

1. 景気全般 ～緩やかに持ち直している

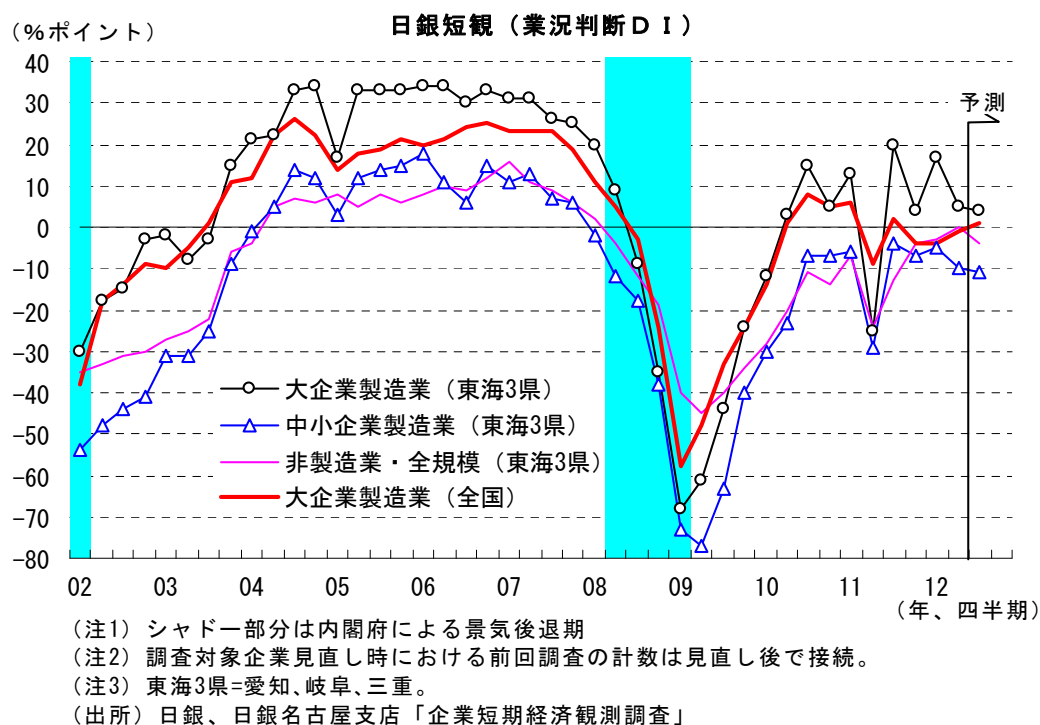
○4月の東海3県の景気動向指数・C I 一致指数は、愛知県が鉱工業生産や有効求人数の増加が寄与し、2ヶ月連続で上昇した。岐阜県も有効求人倍率や大口電力が寄与し小幅ながら上昇した。一方、三重県は鉱工業生産や所定外労働時間の低下がマイナスに寄与したため反落した。



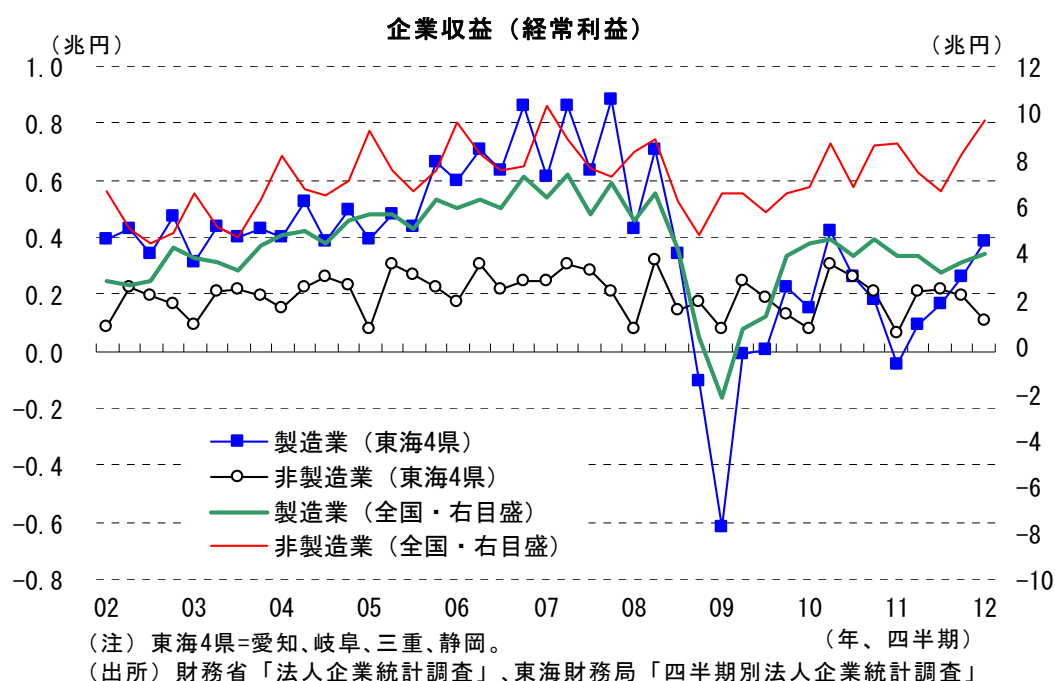
○ 6月の東海4県の景気ウォッチャー調査は、足元の景況感を示す現状判断D Iが前月差-2.3ポイントと3ヶ月連続で悪化した。家計動向関連の現状判断D Iが同-1.7ポイントと44.1に低下した。特に、エコカー補助金終了後の自動車販売の反動減を懸念するディーラーが増えている。東海4県の先行判断D Iは同-4.7ポイントと大きく低下している。



○日銀短観 6 月調査では、東海 3 県の大企業製造業の業況判断 D I (「良い」-「悪い」)は+5 と、自動車の挽回生産で高水準だった前回 3 月調査から 12 ポイント悪化した。中小製造業も-10 と前回調査から 5 ポイント悪化した。大企業製造業の業況判断 D I の 9 月予測は+4 と 1 ポイント悪化する見通しで、改善見通しの全国に比べて慎重な見方となっている。

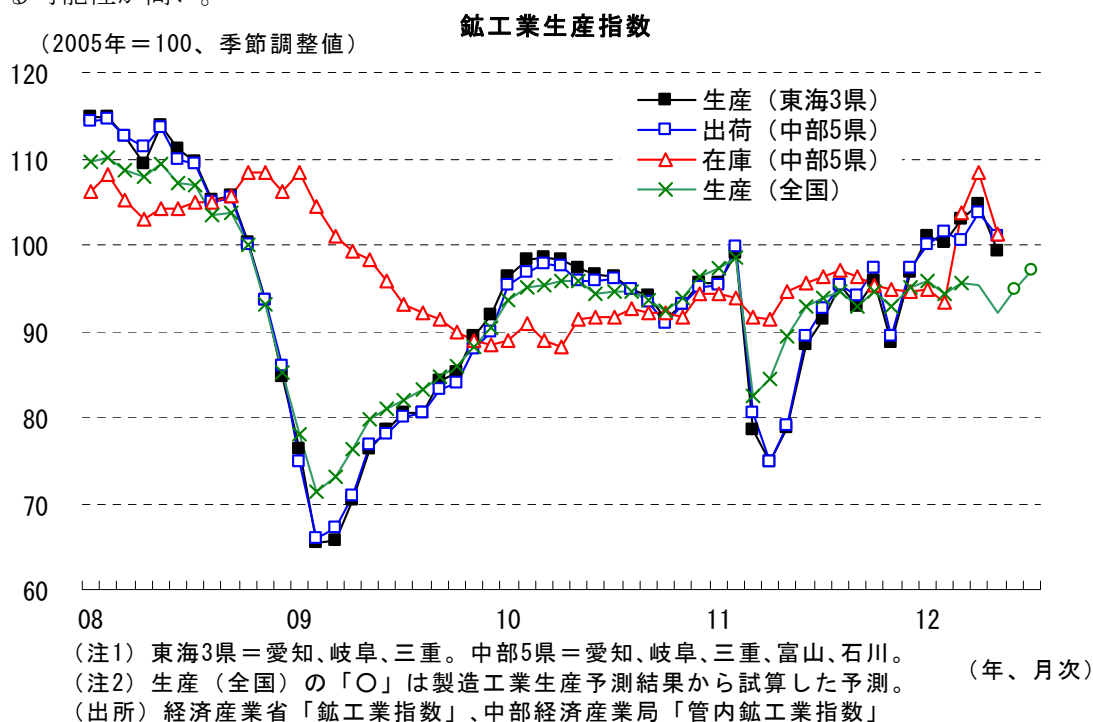


○2012年1～3月期の東海4県の企業収益（経常利益、製造業）は増益が続いており、震災前のピーク（10年4～6月期）の水準に近づいている。非製造業は前年同期比で増加したが、水準は低い。今後は、円高や中国経済の減速などが業績の下押し要因となるが、米国経済の持ち直しにより製造業の企業収益は緩やかな増加基調が見込まれる。

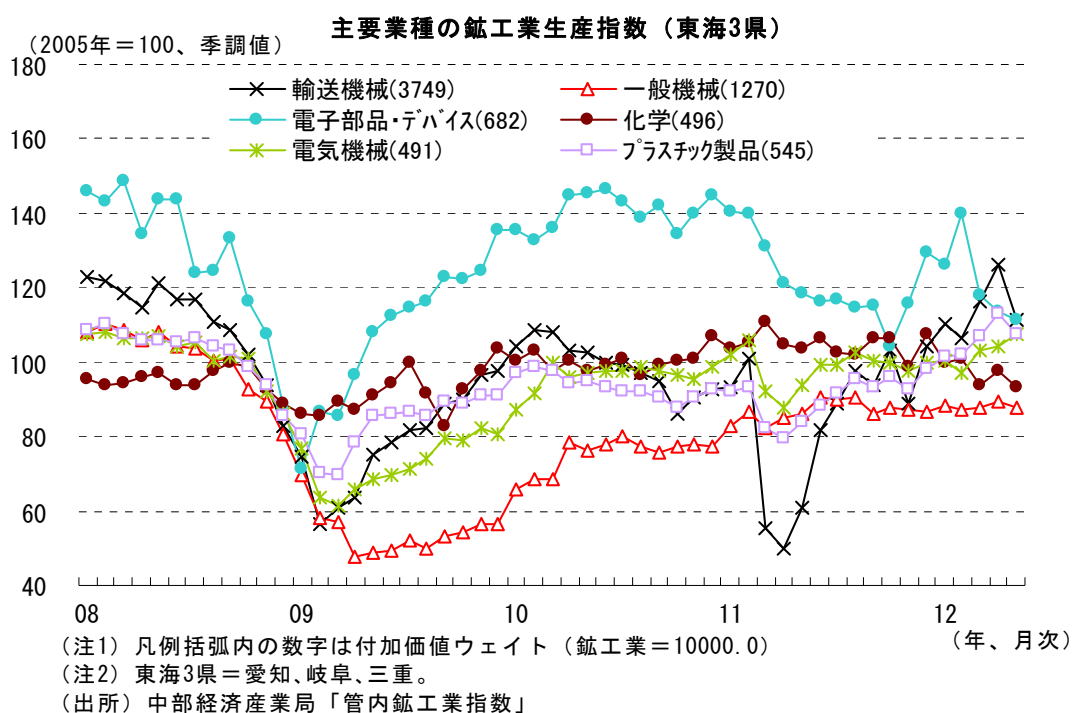


2. 生産 ～横ばい圏で推移

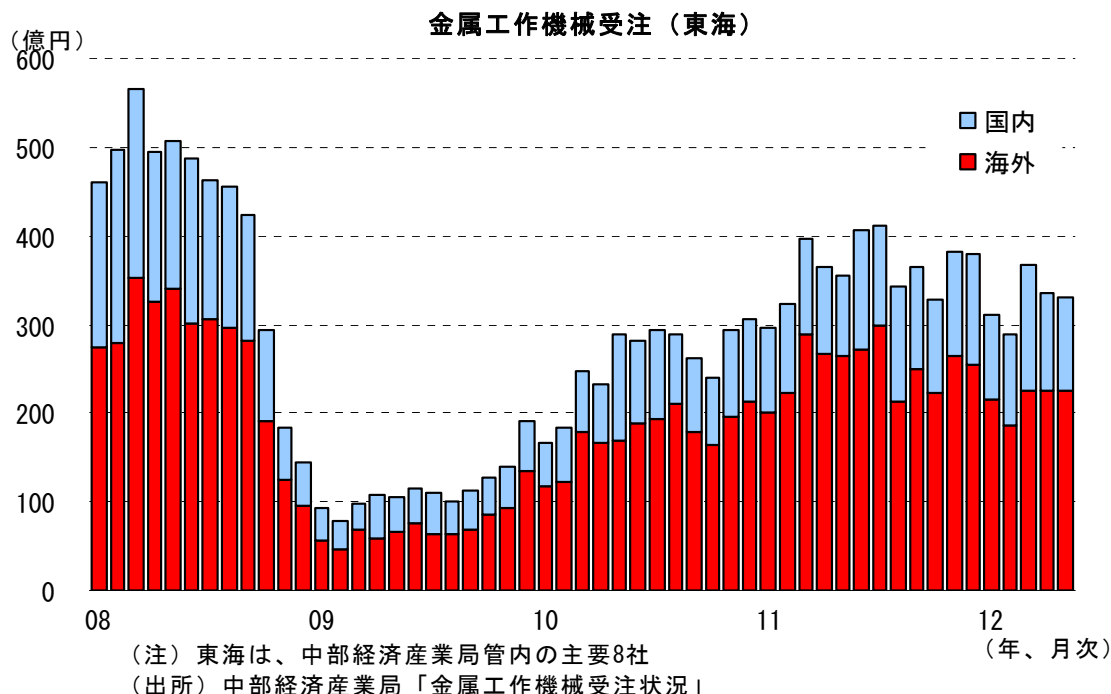
○5月の東海3県の鉱工業生産指数（速報値）は前月比－5.2%と3ヶ月ぶりに低下した。自動車の挽回生産が一段落し、自動車や自動車部品など輸送機械工業の生産低下が響き、低下幅は大きかった。先行きは、自動車輸出の伸びは見込まれるものの、エコカー補助金の効果が剥落するため、生産はさらに減少する可能性が高い。



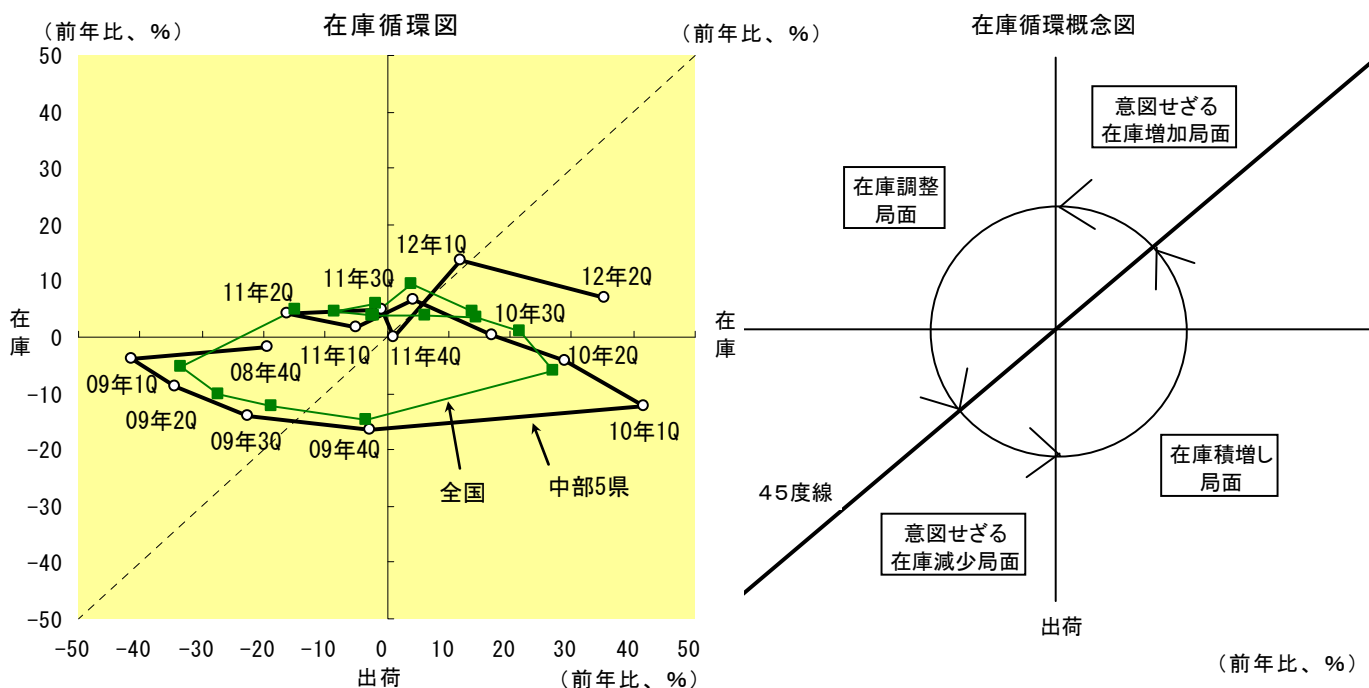
○ 業種別にみると、輸送機械工業は前月比－12.0%と3ヶ月ぶりに低下した。特に、乗用車が前月比－13.8%と大きく低下している。このほか、プラスチック工業製品（同－4.6%）、電子部品・デバイス（同－1.9%）、一般機械（同－1.8%）なども低下した。



- 5月の中部の主要工作機械メーカー8社の総受注額は前年比-7.3%と4ヶ月連続で前年割れとなった。国内受注は+15.1%と前年の反動もあり4ヶ月連続で増加したが、海外受注は-14.9%と4ヶ月連続で減少した。北米向けは+12.4%と堅調だったが、財政金融危機が続く欧州向けが-24.4%となったほか、中国などアジア向けも-24.9%となり5ヶ月連続で前年を下回った。

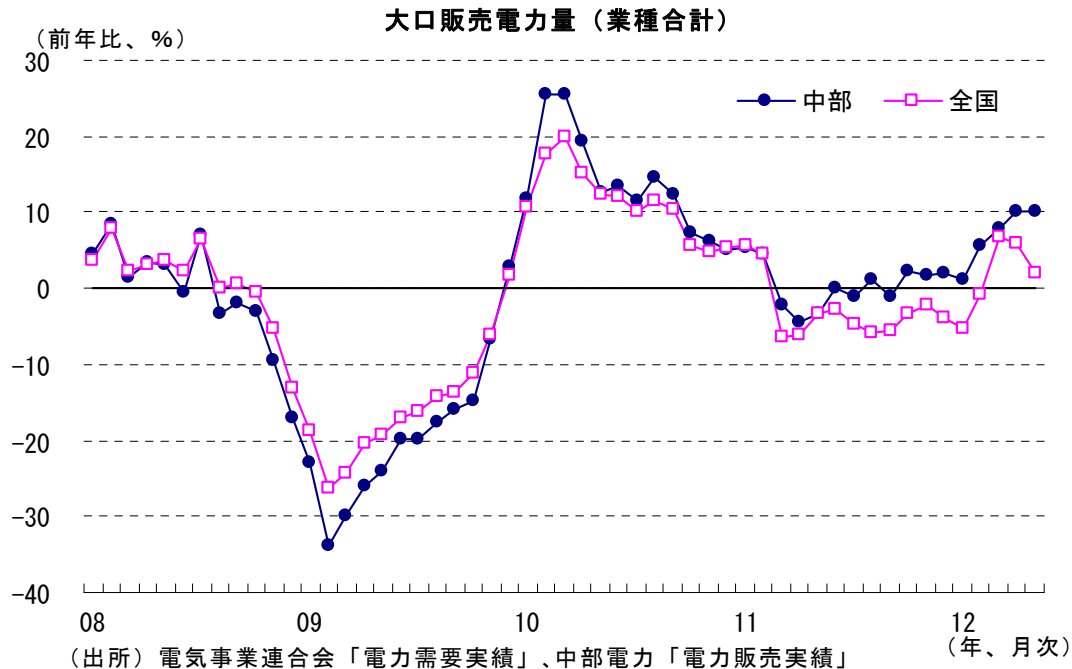


- 5月の中部5県の出荷は、前年比では+32.0%と高い伸びとなったが、前月比では自動車関連を中心に-2.6%と減少した。在庫も同-6.6%と減少したほか、液晶テレビや液晶素子などの電子部品・デバイスも同-28.2%と大きく減少した。



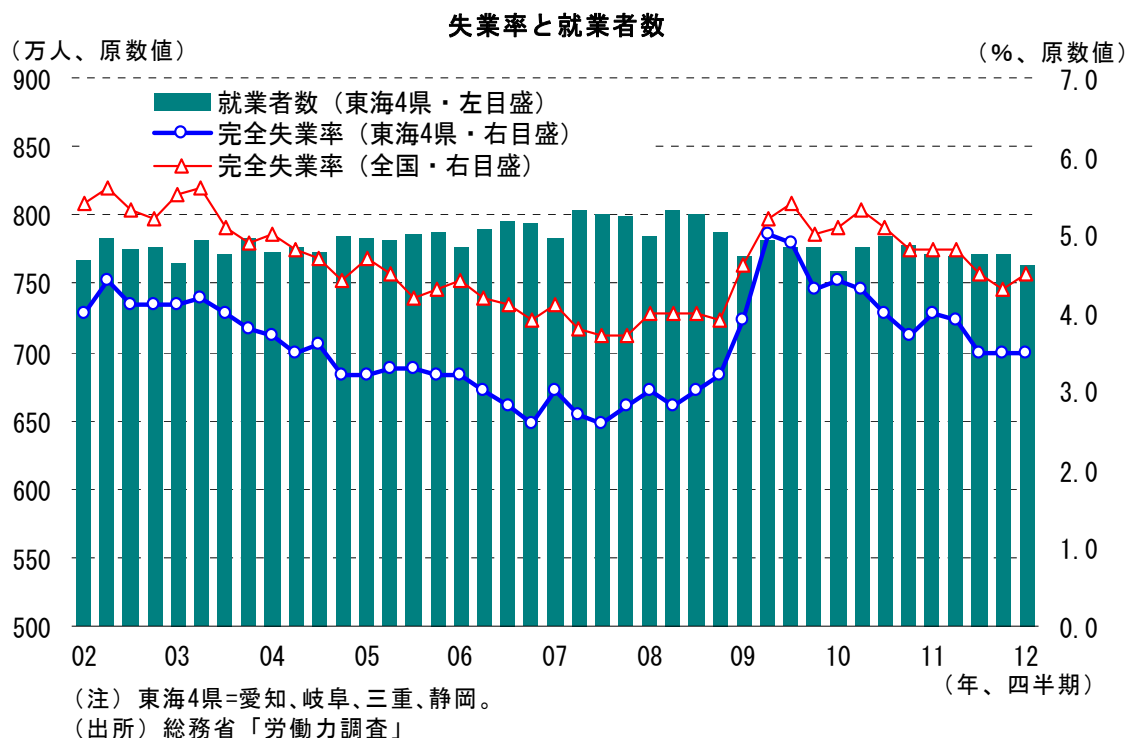
- (注1) 数値は四半期・原数値の前年比、在庫は期末値
直近12年20Qの出荷は4、5月平均、在庫は5月の前年比
- (注2) 中部5県＝愛知、岐阜、三重、富山、石川。
- (出所) 経済産業省「鉱工業指数」中部経済産業局「管内鉱工業指数」

○5月の中部電力管内の大口電力（契約電力500kw以上）は、震災の影響による前年の生産減の反動増により前年比+10.0%と大幅に増加した。依然として高水準の生産を続ける自動車が寄与しており、業種別では、自動車などの機械工業向けが+21.9%、自動車向け鋼材を生産する鉄鋼業向けも+12.2%と増加している。

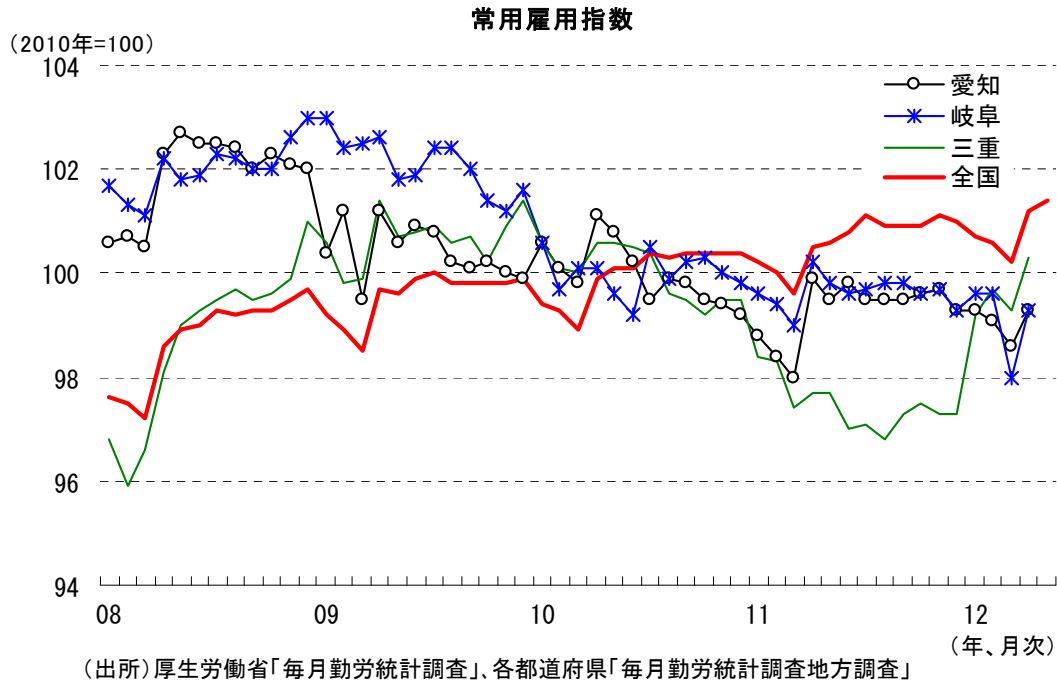


3. 雇用 ～緩やかに持ち直している

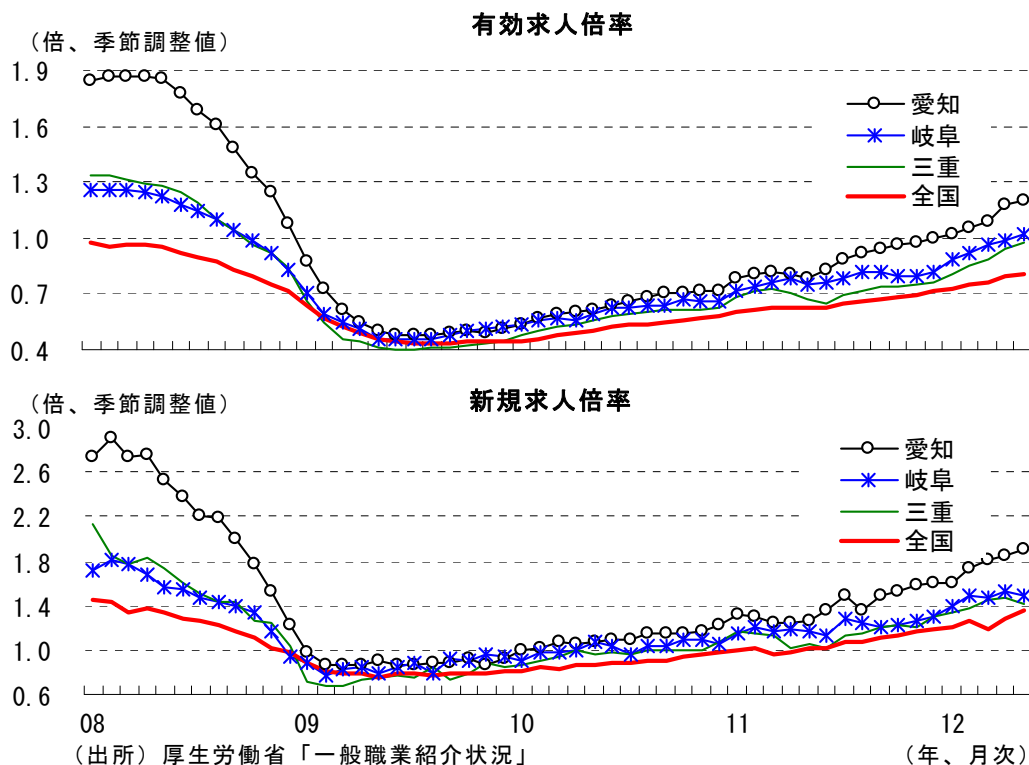
○2012年1～3月期の東海4県の完全失業率は3.5%（前期比±0）と横ばいとなったが、全国の4.5%と比べて低い水準で推移している。2012年1～3月期の就業者数は前期比8万人の減少となった。震災以降の改善傾向はやや頭打ちになってきた。今後の雇用情勢は、自動車の挽回生産が一段落することから、さらに緩やかなペースでの改善にとどまるとみられる。



○4月の東海3県の常用雇用指数は、全国に比べて弱い動きが続いている。三重県が前年比+2.7%（うち製造業+3.0%）と、製造業だけでなく、サービス業など幅広い業種で上昇している。一方、愛知県は同-0.6%（うち製造業+1.8%）と7ヶ月ぶりに低下し、岐阜県も同-0.9%（うち製造業-0.7%）と2ヶ月連続で低下している。

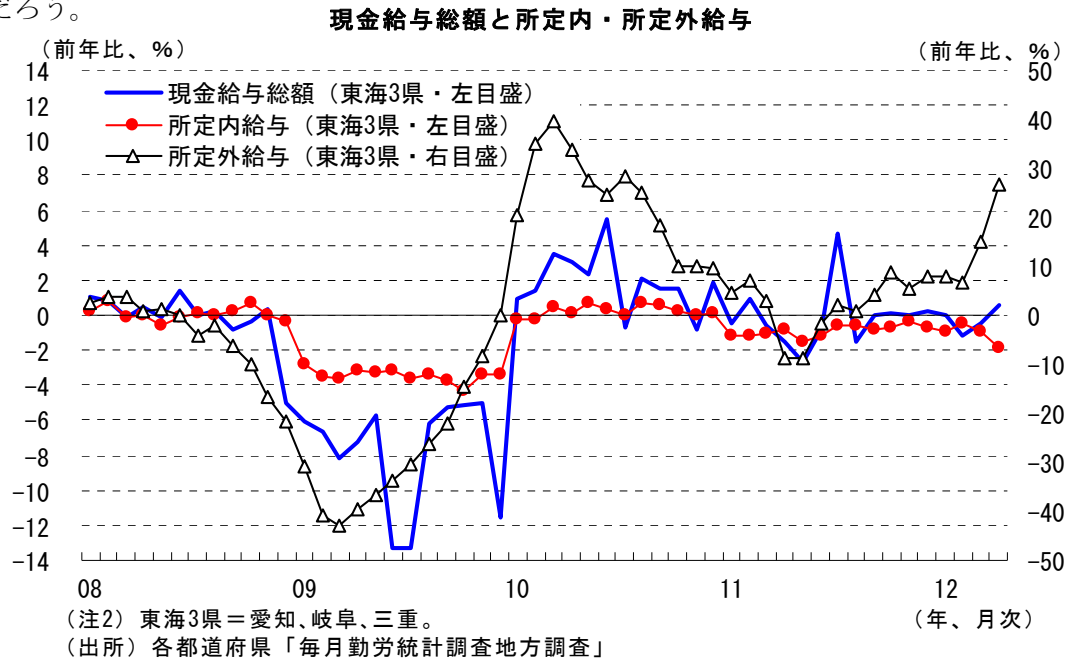


○5月の東海3県の有効求人倍率（季節調整値）は、愛知1.20倍、岐阜1.02倍、三重0.97倍と6ヶ月連続で3県とも改善した。自動車を中心に製造業、運輸、サービスなど幅広く求人が増加した。新規求人倍率（同）は、愛知は1.91倍と改善したが、岐阜は1.48倍、三重は1.41倍と小幅ながら悪化した。新規求人に占める正社員の割合は半分以下にとどまり、正規雇用は厳しい状態が続いている。

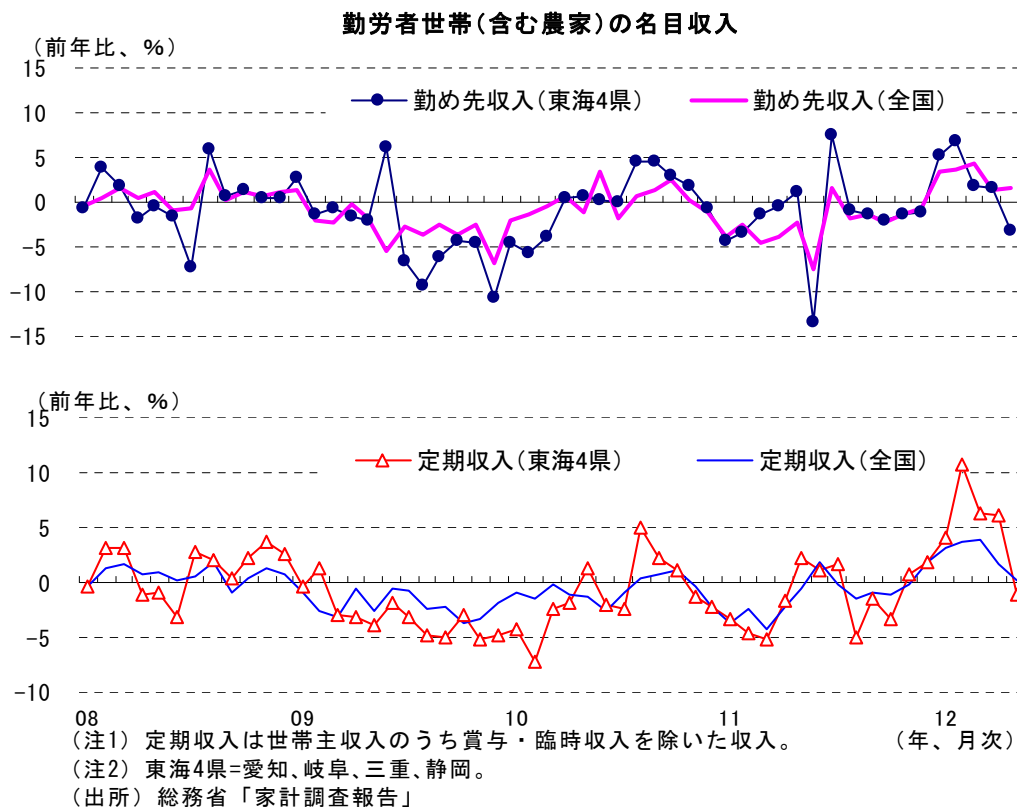


4. 賃金 ～横ばい圏で推移

○4月の一人当たり現金給与総額は前年比+0.5%と4ヶ月ぶりに増加した。所定外給与は同+26.7%と10ヶ月連続で増加したが、所定内給与が同-1.9%と16ヶ月連続で減少が続いている。賃金の持ち直しは所定外給与に限定され、企業の人件費抑制姿勢も根強いいため、今後も賃金は緩やかな伸びにとどまるだろう。

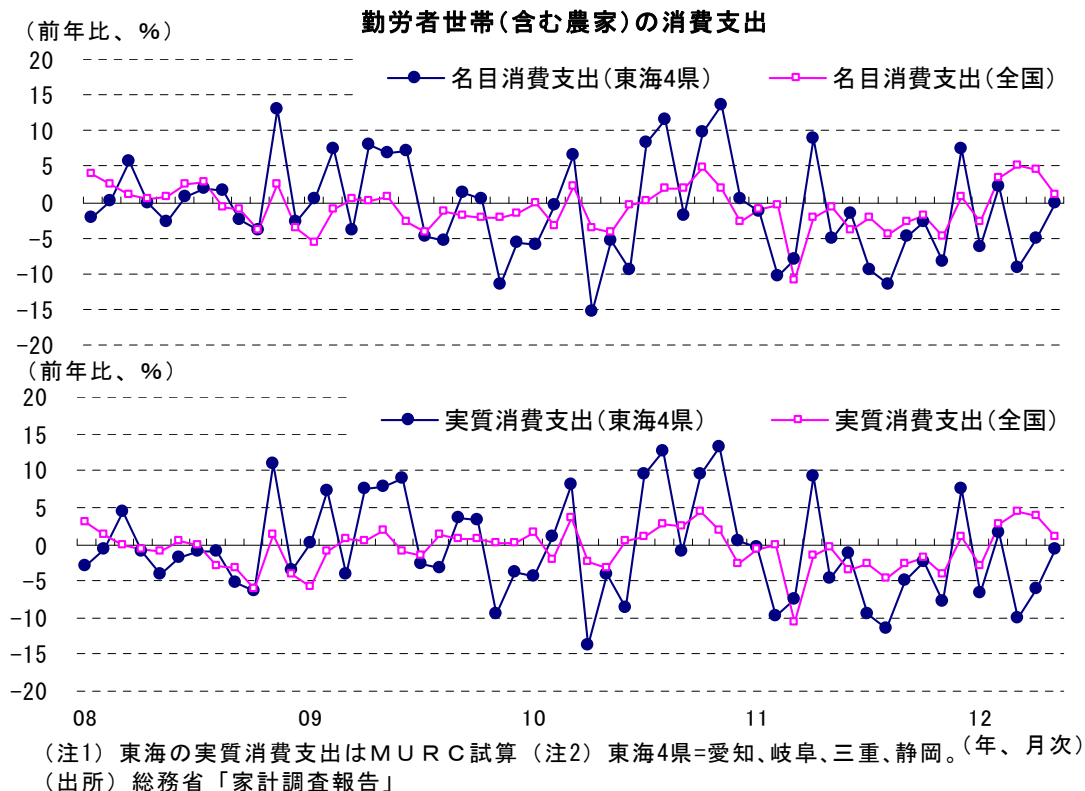


○ 家計調査によると、5月の東海4県の勤労者世帯(含む農家)の賞与を含む勤め先収入は前年比-3.2%と5ヶ月ぶりに減少した。定期収入(世帯主収入のうち賞与・臨時収入を除いた収入)も前年比-1.1%と7ヶ月ぶりに減少している。4月までは全国と比べて所定外収入の増加が寄与していたが、5月には勤め先収入、定期収入いずれも減少に転じており、所定外給与の減少が響いたとみられる。

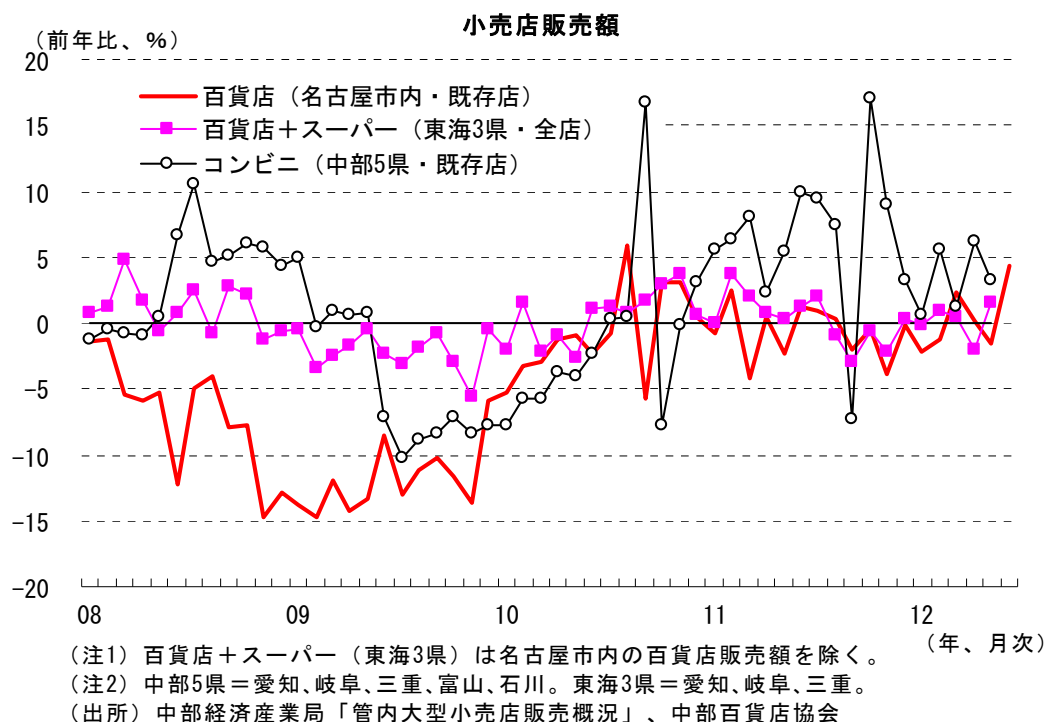


5. 個人消費 ～緩やかに持ち直している

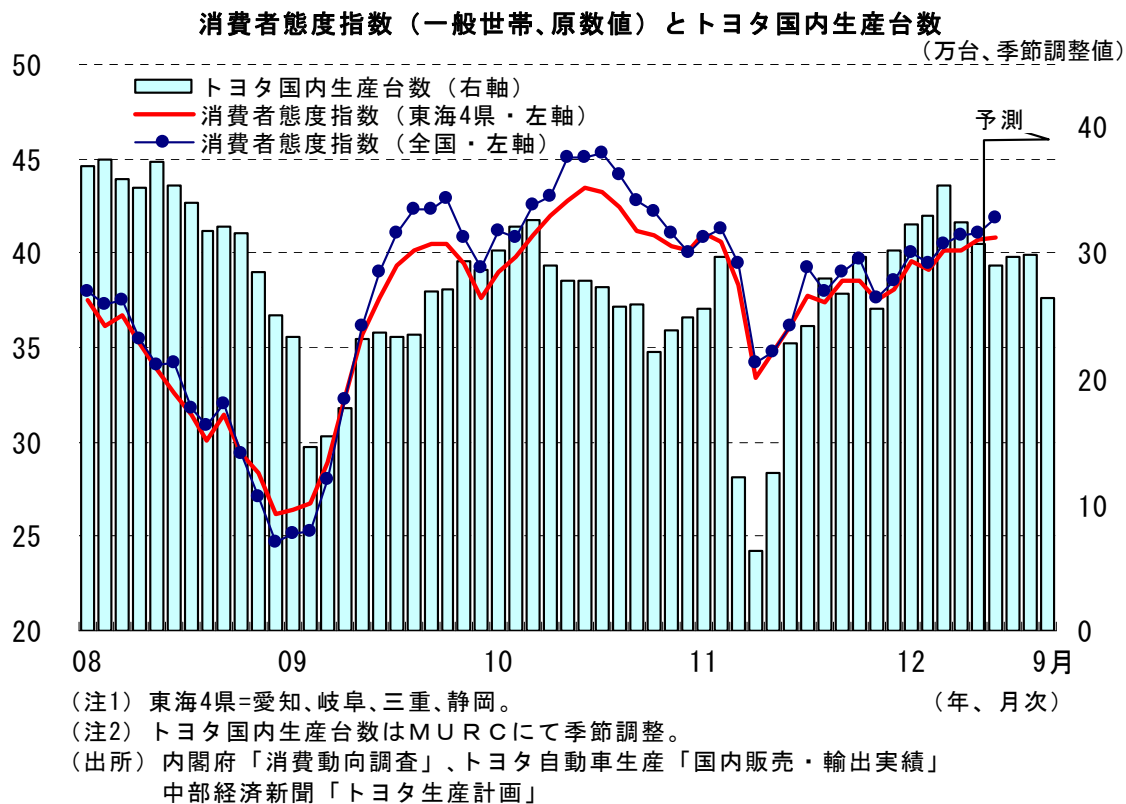
○5月の東海4県の勤労者世帯（含む農家）の名目消費支出は前年比-0.1%と3ヶ月連続で減少した。雇用環境の持ち直しが非正規社員にとどまっているほか、所得環境の持ち直しも所定外給与が中心で、個人消費は底堅く推移しているものの、大きくは好転していない。



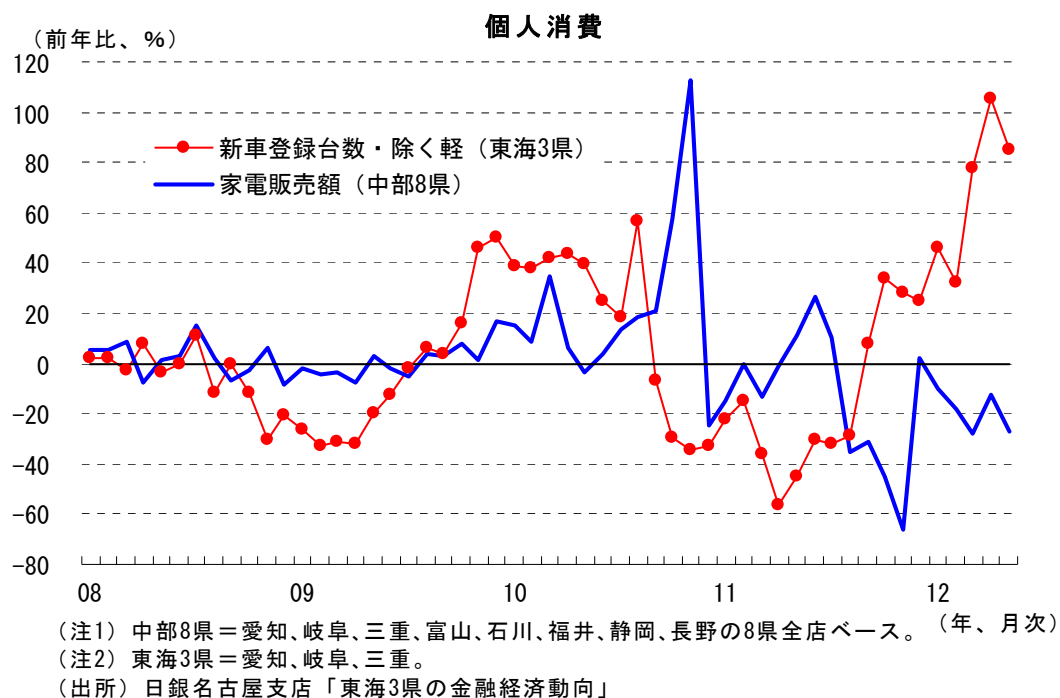
○6月の名古屋市内の百貨店販売額（速報値）は前年比+4.3%と、5社中4社が夏のセールを6月末から実施したことに加え、昨年の震災後の自粛ムードの反動などで売上高を押し上げた。5月の東海3県の大型小売店（百貨店+スーパー）の販売額はクールビズ関連が好調で+1.6%と回復した。5月の中部5県のコンビニ販売額は+3.2%と行楽需要の回復に加え、女性や高齢者向けの商品開発が奏功した。



○消費者マインドを表す消費者態度指数（東海、一般世帯、原数値）は震災からの改善傾向が続いており、6月は前月比+0.1ポイントの上昇となった。ただ、東海の消費者マインドはトヨタの生産動向の影響を受けやすく、挽回生産のピークアウトを受け、消費者マインドの改善も全国より鈍化しつつある。

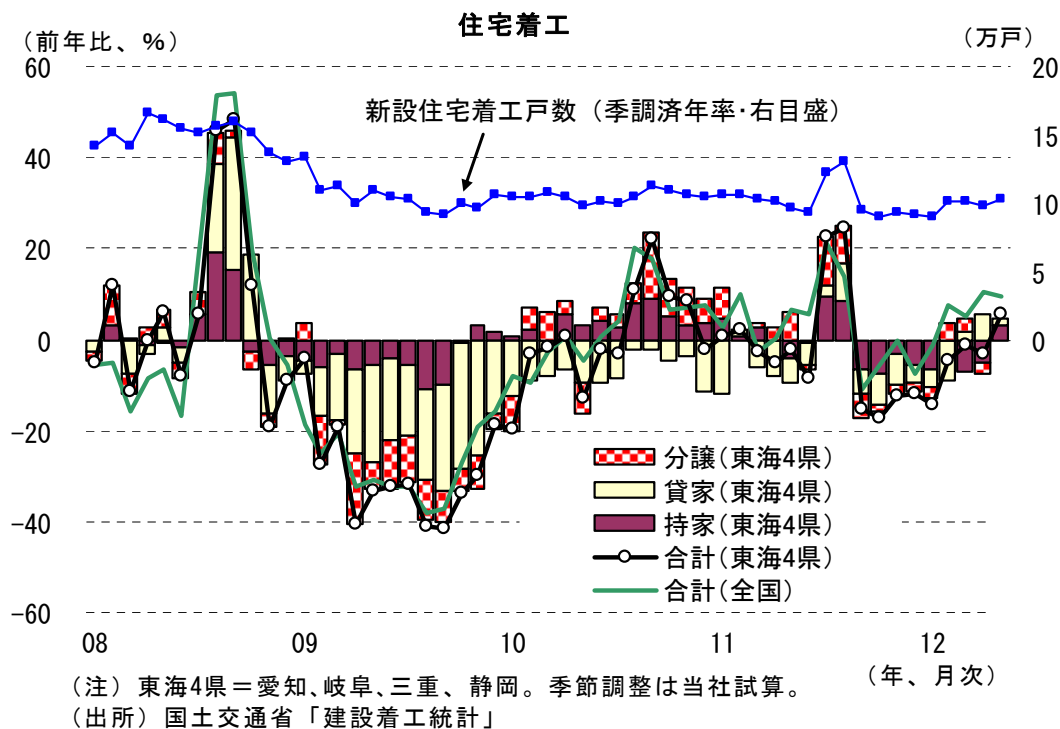


○5月の東海3県の新車登録台数（乗用車、除く軽）は、エコカー補助金制度の効果により前年比+85.1%と大幅増が続いている。8月中にエコカー補助金が切れる見通しとなり、販売は早めに鈍化することが予想される。一方、中部8県の家電販売額は前年比-26.9%と5ヶ月連続で減少しており、スマートフォンは堅調だがテレビやパソコンの不振が続いている。



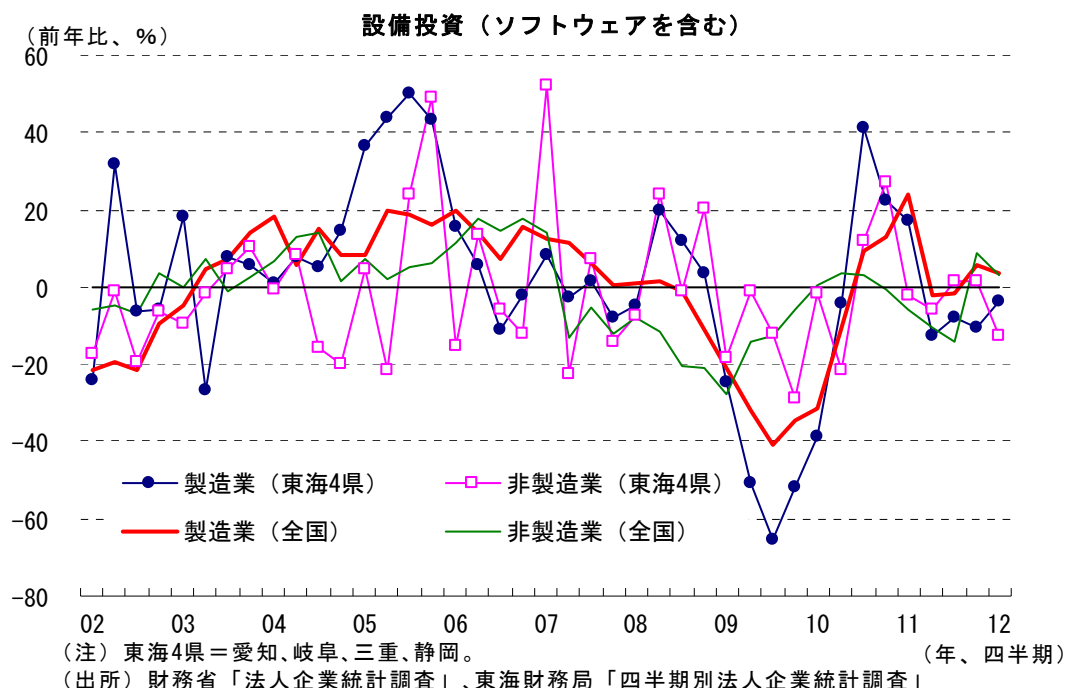
6. 住宅投資 ～横ばい圏で推移

○5月の東海4県の住宅着工戸数は、前年比+5.3%の7,700戸と住宅エコポイント終了前の駆け込み需要もあり9ヶ月ぶりにプラスに転じた。利用関係別では、貸家が同+1.4%と3ヶ月連続で増加したほか、持家も同+3.3%と9ヶ月ぶりに回復した。一方、分譲は同-0.3%と2ヶ月連続で減少した。全国と比べ回復が遅れていた東海4県の住宅投資は持ち直しつつあり、今後も横ばい圏での推移が見込まれる。

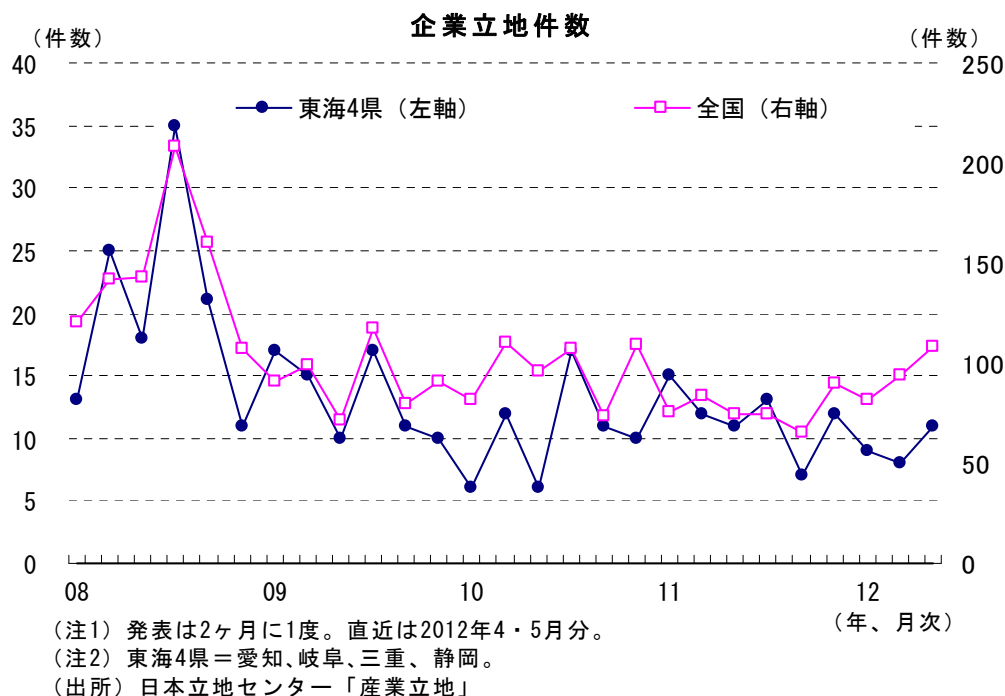


7. 設備投資 ～増加しつつある

○2012年1～3月期の東海4県の製造業の設備投資は前年比-3.5%と4四半期連続で減少したが、減少幅は縮小した。一方、非製造業（ソフトウェアを含む）は前年比-12.5%と大幅に減少した。設備投資は底堅く推移しているものの、全国比やや弱めの動きが続いている。日銀短観6月調査によると、12年度の設備投資計画は、製造業（+23.3%）、非製造業（+15.2%）と大幅な増加が見込まれている。

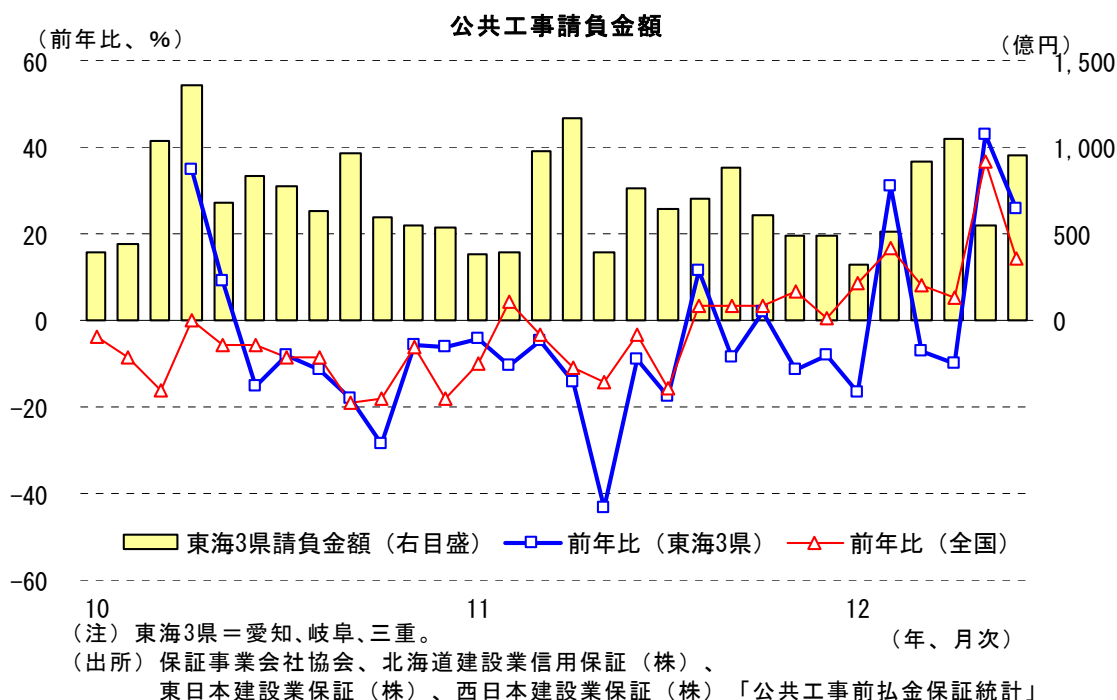


○2012年4・5月の東海4県の企業立地件数は、昨年同期と同じ11件となったが、前期の2・3月と比べると増加している。輸出企業のウェイトが高いため、円高の定着により、製造業を中心に昨年度後半以降の企業立地件数は全国と比べて伸び悩んでいるが、ここに来て企業立地に持ち直しの動きが出ている。



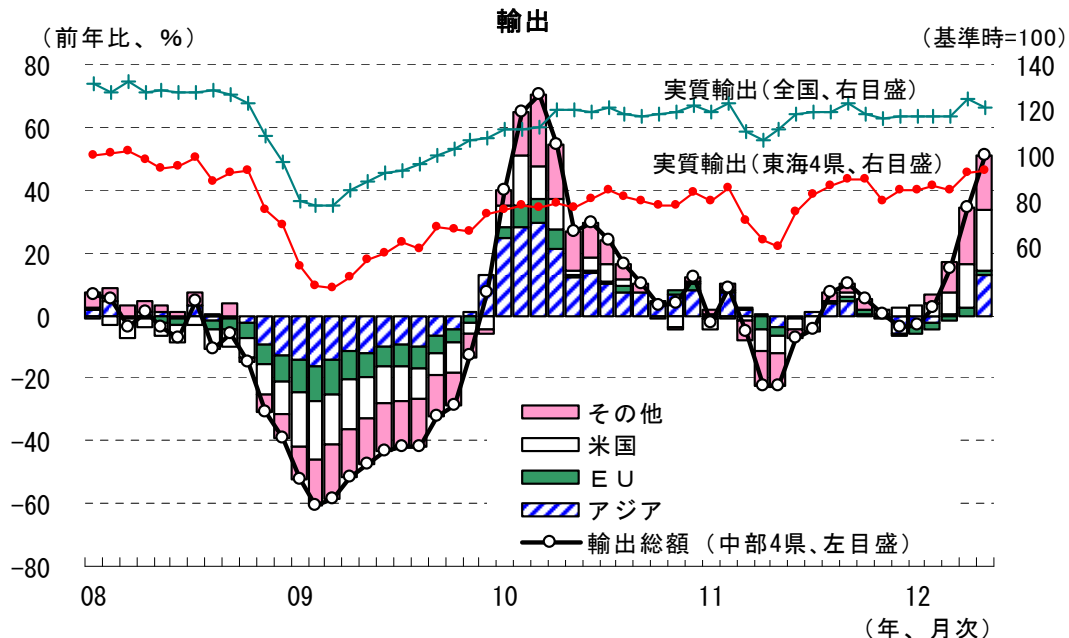
8. 公共投資 ～下げ止まっている

○6月の東海3県の公共工事請負額は、前年比+25.8%の954億円と増加した。発注者別では国が前年比+28.1%と2ヶ月連続で増加、地方も同+25.0%と3ヶ月連続で増加した。東海3県でも災害復旧および防災対策工事の発注などにより、今後も横ばい圏での推移が見込まれる。



9. 輸出入 ～輸出、輸入とも増加

○5月の名古屋税関管内の輸出額は前年比+51.2%と自動車関連を中心に4ヶ月連続で増加した。地域別にみると、米国向けが9ヶ月連続の増加となり、中国などアジア向けも2ヶ月ぶりに増加した。EU向けも2ヶ月連続の増加となったが、財政金融危機の影響により小幅にとどまった。実質輸出（季調済）の水準も増加しているが、今後は海外景気の減速を背景に増加が一服すると見込まれる。



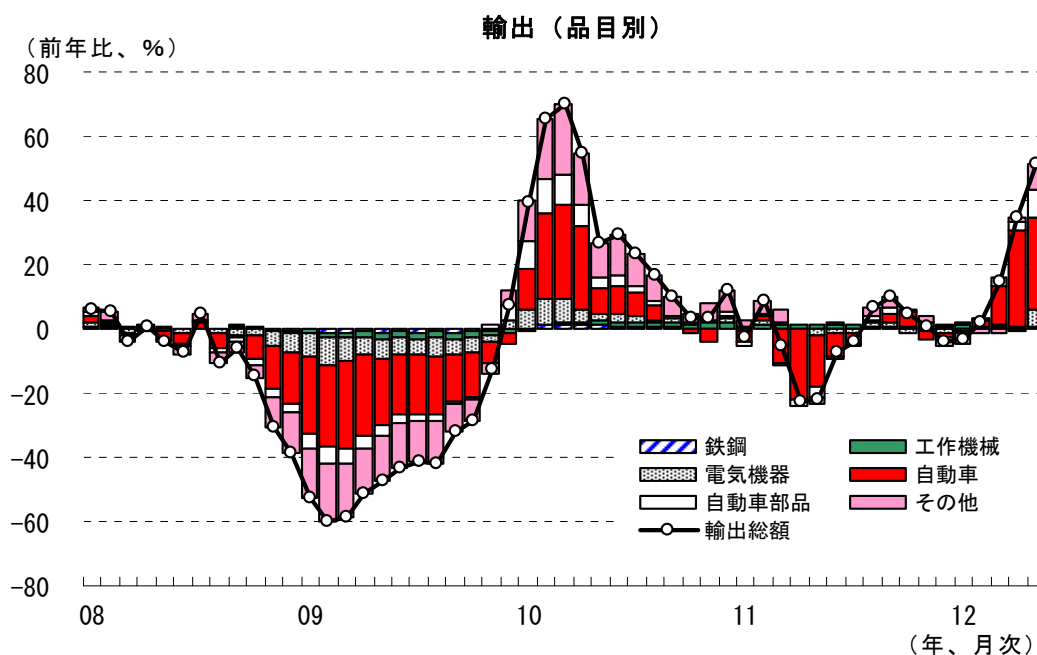
(注1) 実質輸出＝東海3県の基準は2007年12月としMURC試算。全国の基準は2005年。

(注2) 中部5県＝愛知、岐阜、三重、静岡、長野。東海4県＝愛知、岐阜、三重、長野。

(出所) 財務省「貿易統計」日本銀行「実質輸出入」

日本銀行名古屋「東海3県の金融経済動向」

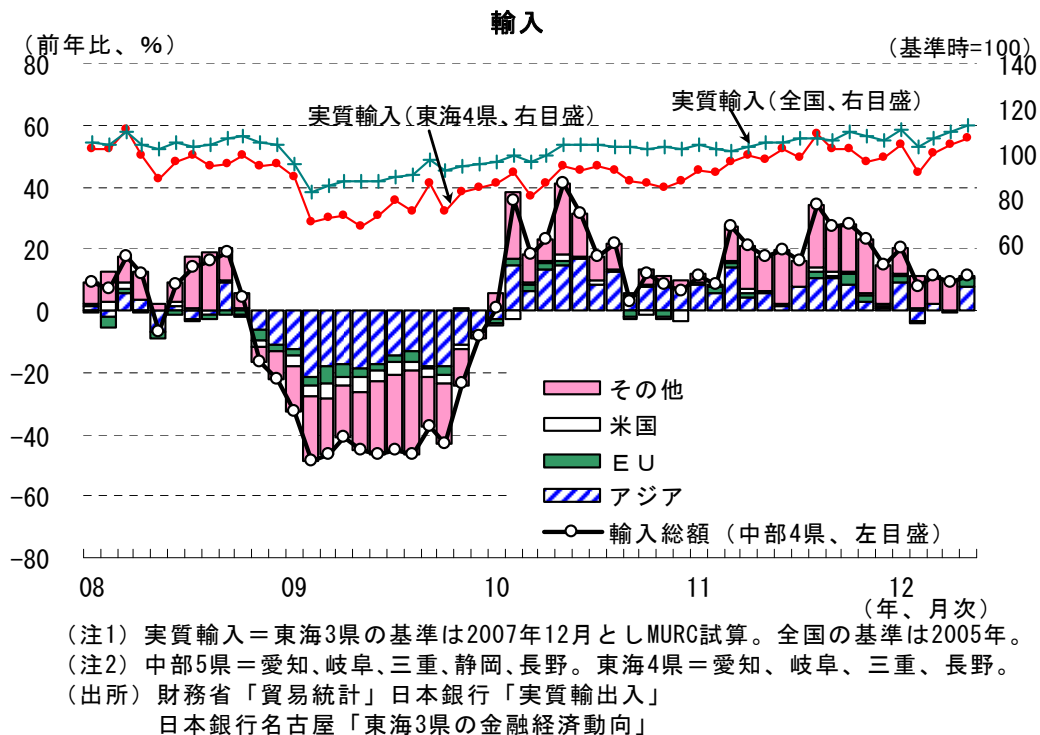
○品目別にみると、自動車（寄与度+28.7%ポイント）や自動車部品（同+8.6%ポイント）がプラス寄与となった一方で、工作機械（-0.0%ポイント）は26ヶ月ぶりに小幅減少に転じた。



(注) 中部5県＝愛知、岐阜、三重、静岡、長野。

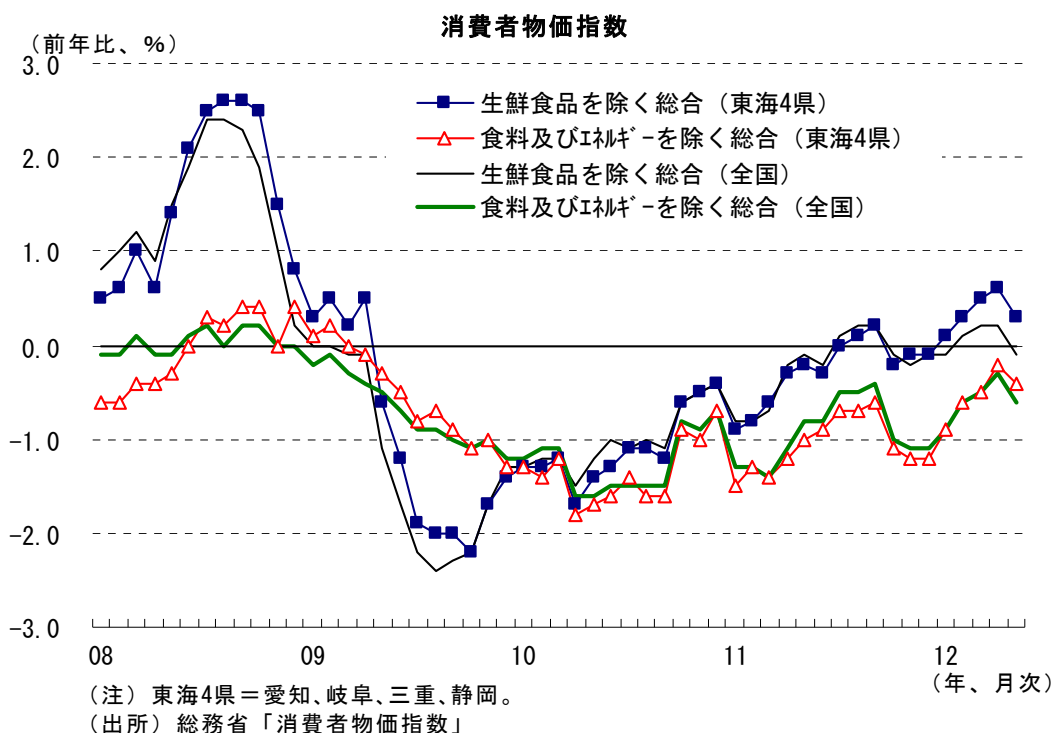
(出所) 財務省「貿易統計」

○5月の名古屋税関管内の輸入は前年比+11.0%と29ヶ月連続で増加した。地域別にみると、中東などその他地域からの原油やLNGガスの輸入に伴う大幅な寄与が一段落したが、代わって、アジアからの輸入増によって輸入全体では緩やかな増加傾向が続いている。



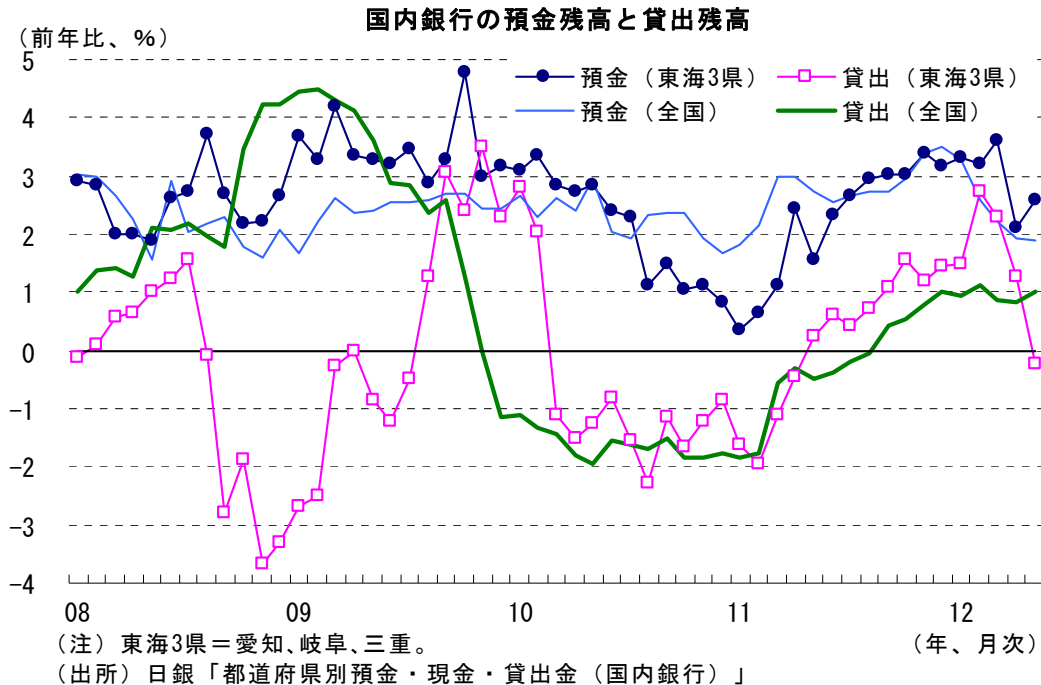
10. 物価 ～消費者物価は緩やかに上昇

○5月の東海4県の消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合で前年比+0.3%と5ヶ月連続で上昇したが、上昇幅は縮小した。一方、食料・エネルギーを除く総合は-0.4%と下落が続き、下落幅も拡大した。家計の所得環境の持ち直しは緩やかであり、依然として物価の上昇圧力は弱い。今後は、エネルギー価格の下落などにより消費者物価の上昇率は縮小すると見込まれる。



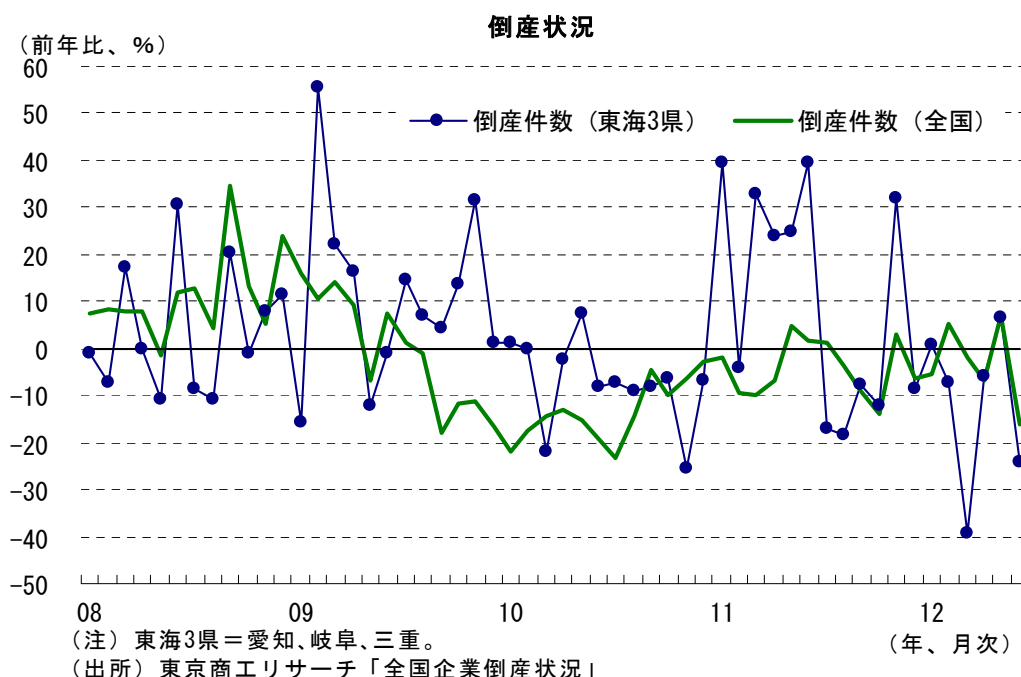
11. 金融 ～預金は増加、貸出は減少

○5月の東海3県の預金残高（国内銀行ベース）は、企業の資金繰りの改善により前年比+2.6%と増加した。一方、貸出残高（国内銀行ベース）は同-0.2%と13ヶ月ぶりに減少に転じており、自動車の増産に伴う運転資金の需要は一段落したとみられる。



12. 倒産 ～倒産件数、負債総額ともに減少

○6月の東海3県の倒産件数は、愛知が前年比-22.4%、岐阜が同-29.4%、三重が同-33.3%と3県とも減少し、東海3県全体では前年比-24.2%の94件となった。引き続き、中小・零細企業の小口倒産が目立つものの、負債総額は同-31.5%の113億円と2ヶ月連続で減少した。



【全国及び関西地区との比較】

【今月の景気予報】

		3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後			3ヶ月前～	現況	～3ヶ月後
景気全般	全国	↗		↗	輸出	全国	↗		→
	東海	↗		→		東海	↗		→
	関西	→		→		関西	↘		↘
個人消費	全国	↗		↗	輸入	全国	↗		→
	東海	↗		→		東海	↗		→
	関西	↗		→		関西	→		→
住宅投資	全国	→		↗	生産	全国	→		→
	東海	→		→		東海	→		↘
	関西	↗		→		関西	→		→
設備投資	全国	↗		↗	雇用	全国	→		→
	東海	↗		↗		東海	↗		→
	関西	↘		↗		関西	→		→
公共投資	全国	↗		↗	賃金	全国	↗		→
	東海	→		→		東海	→		↘
	関西	→		→		関西	→		→



： 晴れ



： 薄日



： 曇り



： 小雨



： 雨

- (注) 1. 3ヶ月前～、～3ヶ月後は「現況」の変化の方向感（改善、横ばい、悪化）を表し、「現況」は現在の水準を天気マークで表す。
 2. シャドー部分は、前月から矢印および天気マークを変更した項目を表す。
 3. 全国は7月3日時点の予報。

【各項目のヘッドライン】

項目		6月のコメント	7月のコメント
1. 景気全般	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	横ばいで推移している	横ばいで推移している
2. 生産	全国	緩やかに持ち直している	横ばい
	東海	持ち直している	横ばい圏で推移
	関西	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
3. 雇用	全国	厳しい中で一進一退	厳しい中で一進一退
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	厳しい中で一進一退	厳しい中で一進一退
4. 賃金	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
	関西	横ばい圏で推移	横ばい圏で推移
5. 個人消費	全国	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	東海	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
6. 住宅投資	全国	緩やかな持ち直し基調にある	緩やかな持ち直し基調にある
	東海	下げ止まりつつある	横ばい圏で推移
	関西	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
7. 設備投資	全国	持ち直している	持ち直している
	東海	底堅く推移している	増加しつつある
	関西	弱含んでいる	弱含んでいる
8. 公共投資	全国	増加している	増加している
	東海	下げ止まりつつある	下げ止まっている
	関西	下げ止まっている	下げ止まっている
9. 輸出入	全国	輸出、輸入とも横ばい	輸出は持ち直しの動きが見られる、輸入は増加している
	東海	輸出、輸入とも増加	輸出、輸入とも増加
	関西	輸出は弱い動き、輸入は横ばい	輸出は弱い動き、輸入は横ばい
10. 物価	全国	国内企業物価、消費者物価ともに横ばい	国内企業物価、消費者物価ともに横ばい
	東海	消費者物価は緩やかに上昇	消費者物価は緩やかに上昇
	関西	消費者物価は横ばい	消費者物価は横ばい
11. 金融	全国	銀行貸出、マネースtockともに緩やかに増加	銀行貸出、マネースtockともに緩やかに増加
	東海	預金、貸出ともに増加	預金は増加、貸出は減少
	関西	預金は増加、貸出は減少	預金は増加、貸出は減少
12. 倒産	東海	倒産件数は増加、負債総額は減少	倒産件数、負債総額ともに減少
	関西	倒産件数、負債総額ともに増加	倒産件数、負債総額ともに増加

(注) シャドー部分は前月と比較して見方を変更した項目

「グラフで見る東海経済」の見方

【今月の景気判断】

○レポート発表時における景気判断。【今月の景気予報】における各項目の現況をもとに総合的に判断。

【今月の景気予報】

○3ヶ月前～・・・3ヶ月前～現況の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

○現況・・・・・・各項目の現在の「水準」を①晴れ、②薄日、③曇り、④小雨、⑤雨の5段階に分類。

○～3ヶ月後・・・現況～3ヶ月後の「方向感」を、①改善、②横ばい、③悪化の3段階に分類。

（注）

現況をあらわす天気マークはあくまで「水準」を判断したもので、3ヶ月前～の矢印が①改善、③悪化の場合でも、必ずしも天気マークが変更されるわけではない。

【当面の注目材料】

○各項目の現況、見通しをふまえて、今後景気を判断する上で注目すべきポイント。

【各項目のヘッドライン】

○全12項目について、毎月簡単なヘッドラインを記載、当月と前月のものを対比して示している。

○右端は各項目のグラフが掲載されているページ数。

【前月からの変更点】

○景気予報において判断の変更があった場合に変更理由を記載。

【主要経済指標の推移】

○当レポートで用いられている経済指標の半年間の動きを掲載。

【各項目】

○発表されている経済指標を元に現況の判断、今後の見通しをグラフを用いて解説。

【全国及び関西地区との比較】

○【今月の景気予報】と【各項目のヘッドライン】について、全国（グラフで見る景気予報）と関西地区（グラフで見る関西経済）の判断と、一覧表で比較。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。